

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600536		
法人名	有限会社 ケアサポートふる郷		
事業所名	ケアサポート・ワンスホーム		
所在地	帯広市西1条南36丁目1-27		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果市町村受理日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族とのつながりがあり、気軽に来所できるようになっている / 夏祭りを開催し、利用者・家族・地域の人・ボランティアと交流できる場を設けている / 看取りに取り組んでいる。最期まで看取することで利用者家族も安心し、深い信頼関係もできている / 食事(他事業所では扱うことが少ない、なまものも提供している)

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijokouhyou/informationPublic.do?JCD=0174600536&CD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まもなく10年の歳月を迎えようとしている当事業所は、国道236号線沿いの閑静な住宅街の中の木造2階建て、手作りの庭と近くを流れる札内川とがうまく調和している。職員の半数は5年～10年と勤続年数が長く、経験を積んでおり、また入居期間の長い利用者が多いことから、「私を分かっている人がいる」という安心感をもたらし、「関わった時間」が長いことで、知識や技術の検証と「利用者さんを理解する」ことが実践されている。そして、その経験値が「利用者さんの人生の最後までおつきあいたい」とする施設長の信念により、一層、研鑽されていることが伺える。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	「ゆっくり、一緒に、楽しく」を理念とし、実践している / 理念を玄関・事務所に掲示している。ミーティング時には読み上げ、意識付けを図っている	理念が玄関・事務所に掲示されており、定例のミーティングや日々の職員間の話し合いを通し、管理者・職員が共有している。	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	町内会の行事に参加したり、夏祭りを行う等、地域との交流に努めている / 散歩に出かけた時など、地域の方と交流している	町内会に加入しており、町内会行事には利用者、職員が参加している。また、ホームの夏祭りなどにも地域の人たちが来訪している。	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	町内会の人々と交流し、地域の人々に、認知症の理解や支援の方法を活かせる努力をしている		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	町内会役員・家族・地域包括支援センター・管理者・職員が参加・協議し、サービス向上に活かしている	運営推進会議を定例的に開催し、ホームの外出行事等の紹介、ホームの食事を知ってもらうために食事会を行っている。	運営推進会議のテーマについて、もう一歩進めて、行事も含めたホームの生活状況、例えば、避難訓練時の状況、インフルエンザの対応など、地域の人たちにも共通する話題なども検討されたい。
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	認定調査等の際には、市町村担当者とその都度、相談する等、協力関係を築いている	市の生活圏域に沿って、担当する地域包括支援センターとの相談・報告をしている。また、行政には運営推進会議の内容等について報告している。	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	すべての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる(目立つ身体拘束はないが、安全確保のためベッド柵は使用している)	契約上に身体拘束の禁止規定をもうけ、職員には会議、研修を通して、身体拘束が利用者にも不利益になることを周知・徹底している。	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員を研修に派遣し学ぶ機会をもち、虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで個々の必要性を検討し、活用できるよう支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安・疑問が生じないよう、話し合い・説明の場を設けている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも、どの職員にでも要望を伝えられる家族との関係を密にしており、運営に反映している。/年に一度家族との交流会を開き、情報交換の場としている。	玄関に意見箱を設置している。家族来訪時には職員が家族と話す機会が持てるよう、時間を意識的に持ち、コミュニケーションを図っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部の研修を受講する機会を設け、ミーティング時に研修報告を発表することで、全職員にフィードバックされている	定例会議の開催、日々の利用者の支援を通して、施設長と職員の間意思疎通を図りながら、職員からの意見を聞き取り、ホーム運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを感じ、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受講する機会を設け、ミーティング時に研修報告を発表することで、全職員にフィードバックされている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力関係にある事業所主催の勉強会に出席するなど、サービスの質向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の声に耳を傾けることはもちろん、不安や要望を伝えやすい雰囲気作り、安心して身を任せてもらえる関係づくりに努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の不安が解消できるよう親身に話を聞き、信頼関係が構築できるように努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>一番必要なケアが何かを見極め対応している / 本人・家族の希望に沿った支援の提供に努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できることは本人が行い、できない部分を支援する「共に支えあう関係」作りを行っている</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>個別に行う誕生会に家族にも参加してもらったりなど、家族にも本人との関わりを持ってもらい、共に本人を支えていく関係性を築いている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出時に利用者の希望を聞き、行きたい場所・馴染みの場所に訪問する支援を行っている / 来訪者と話したり、一緒に出掛けるケースもある</p>	<p>入居者、職員の円滑な関係づくりと長年の信頼関係を通し、利用者の社会関係の継続に配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>外出やイベントへの参加、食後の茶碗拭きなどを通じて、利用者同士が関わりあえる場を設けている / 個々の利用者がホームでの生活を楽しめるよう支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも来所できる雰囲気作りに努めているほか、声かけもやっている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけしながら、本人の思い、希望、意向などを把握できるよう努めている	利用者の心身の状態を理解しながら、職員が利用者の要望を把握することに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活環境などを把握し、その人らしい生活が送れるように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、小さな変化も職員間で共有することで、現状を把握している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで話し合い、現状に即した介護計画が作成されている	入居者の平均年齢、要介護度が高く、日々の生活支援においては、医療との連携が不可欠であることから、主治医との関係等を念頭においたサービス計画をチーム内で話し合い、実践されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを個別記録に記入することで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院に介護タクシーを利用したり、デイサービスを利用するなど、柔軟な支援に取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、町内会、特に近隣住民と顔見知りになり、楽しく、安全で豊かな暮らしができるよう支援している / フラワーセラピーや書道を通じて楽しみのある生活を提供している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の往診、適時の電話での指示のほか、そのときの状況により適切な医療機関で医療を受けられるよう支援している	受診は、本人・家族の要望を聞き取りながら、必要時には主治医による往診が月2回、及び電話での指示がなされている。インフルエンザの予防接種を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等へ伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職のため、適切な医療・看護が提供されている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医をはじめとした医療関係者や家族と情報交換できる関係が構築されている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と終末期の対応について書類を取り交わしている。また、重度化した場合の医療連携体制も構築されている	入居時に終末期の対応について書類を取り交わし、医師の指示のもと、看取り介護を行っている	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故などに備えて、応急手当などの実技が身につくよう努力している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、利用者が避難できる方法が確立されている	消防署による定例の避難訓練を実施しており、ホームには非常時の連絡体制が整備されている。スプリンクラーも設置されている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応が行われている	「利用者さんは人生の大先輩であること」とした考え方が職員全体に周知され、接し方・言葉に配慮がみられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を気兼ねなく表出できるよう働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、散歩やドライブなどを楽しんでいる		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を使っているほか、美容室へ外出する利用者もいる / 化粧をしたり、好きな洋服を選んでもらえるような支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、配膳、片付け、下ごしらえなどを自分の役割として認識している利用者があり、自然と行われている	要介護度が高くなり、心身について介助が必要な利用者も多くなっているが、状況により個別な対応ができるよう配慮されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランス、水分量が確保できるよう、声掛けなどにより適切な支援を行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者には、毎食後、舌のブラッシングを含めた口腔ケアが行われている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の行動や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている	記録、連絡等により利用者の排泄パターンを把握し、利用者自身がトイレで排泄できるよう声掛け、誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動を前提に、必要な利用者には排便を促すお茶や下剤の調整を行っている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定であるが、その中でも希望時間を聞くなど、なるべく本人の希望に添えるよう努力している	週2回の入浴があり、個別のタオル・石鹸・シャンプーが用意されており、体調により、シャワー、他の曜日に職員の介助により入浴を実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠できるよう声掛けやトイレ誘導を行っているほか、昼夜逆転しないように気をつけている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬については個々に個人記録にまとめられており、職員の共通理解となっている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にやりがい、生きがいを感じられるよう、生活の中で役割を担ってもらい、楽しく生活できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度、ドライブなど外出の機会を設けている。個人レベルでは、家族や知人の協力が得られれば、外出できるよう支援している	季節により、ホーム室外に用意しているベンチに座って庭を鑑賞したり、近隣の遊歩道を利用して、自然に触れる機会を多く持つよう配慮されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者については、外出時などに本人がお金を持って買い物をしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員の見守り等は必要であるが、本人が電話や手紙を書けるよう支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に応じた飾り付けを行っている / ベランダからは庭や花壇を楽しむことができ、居心地よく過ごせる工夫がなされている	玄関、居間等に季節を意識した飾りつけやドライフラワーが彩りを添えている。食事の際には静かに音楽が流れ、職員・利用者の会話ができるよう配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、気の合う利用者同士が話せるようにしているほか、思い思いに過ごせるような工夫もなされている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、写真が飾られており、個性的な居室環境づくりが工夫されている	入居時に物品等の持込ができることが説明され、利用者の使い慣れた家具などが置かれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に応じて、エレベーターや手すりを使用している / 玄関には腰掛け長椅子を設置し、安全性・自立性にも配慮している		